

平成 30 年度富山県民生涯学習カレッジ運営会議について

1 設置目的

生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項を調査審議するもの

【富山県民生涯学習カレッジ条例 第 7 条より】

2 委員名簿 13 名（五十音順）

赤川 雅和	元富山短期大学幼児教育学科教授、新川地区センター運営会議会長
伊東 眞	滑川市教育委員会教育長
上埜眞知子	富山県婦人会事務局長
大西ゆかり	富山県 P T A 連合会副会長
笹田 茂樹	富山大学人間発達科学部教授、富山地区センター運営会議会長
清水 賢	富山県公民館連合会事務局長
仲井 文之	富山国際大学子ども育成学部教授、砺波地区センター運営会議会長
長尾 順子	公募委員
中川美彩緒	富山県水墨美術館館長
中西 彰	富山県生涯学習団体協議会会長
深井 康子	富山短期大学教務部長、富山短期大学食物栄養学科教授 高岡地区センター運営会議会長
藤田公仁子	富山大学地域連携推進機構生涯学習部門教授
松原 隆光	富山県経営者協会教育委員会委員長

3 会議概要

(1) 開催日時 平成 31 年 2 月 25 日（月）14:00～16:00

(2) 開催場所 富山県教育文化会館 403 号室

(3) 議題

【報告事項】

- ・平成 30 年度実績及び平成 31 年度予定について

【協議事項】

- ・富山県民生涯学習カレッジの運営に係る現状と課題について

(4) 会議資料

議事関係資料、協議関係資料 1、協議関係資料 2

(5) 配布資料（パンフレット等）

県民カレッジ 30 年のあゆみ

学遊とやま

平成 31 自遊塾 塾生募集講座一覧、

特別講座叢書（「A I 時代の先を読む」 講師 羽生 善治氏）、

郷土学習教材（DVD）「とやまの曳山“世界の宝”を守り続ける」

～全国地域映像コンクールグランプリ（第 1 位）受賞作品～

4 審議事項等

■出席者

- 【運営委員】 赤川委員、伊東委員、上埜委員、大西委員、清水委員、仲井委員、長尾委員、中川委員、中西委員、深井委員、藤田委員、松原委員
- 【事務局】 山崎学長、松島新川地区センター副所長、奥井富山地区センター副所長、尾崎高岡地区センター所長、中明砺波地区センター所長、稲澤副学長、中野企画管理課長、中山映像センター課長、網社会教育主事、大野社会教育主事

■開 会

(1) 学長挨拶

本日は、県民生涯学習カレッジ運営会議を開催したところ、委員の皆様には、ご多用中にもかかわらずご出席いただき、ありがとうございます。

県民カレッジが創設され、開学したのは、昭和 63 年 10 月であり、今年度 30 年の節目の年を迎え、昨年 10 月には 30 周年記念式典を開催しました。

開学当初から県民カレッジが一貫して行っていることは、広く県民に生涯学習の機会を提供すること、生涯学習に関する様々な情報を広く提供することであり、これまでも多くの学習機会や学習情報を県民のみなさまに提供してきたところです。

また、生涯学習に取り組む人たちの学習相談への対応、更には映像による生涯学習の支援に務めており、その中で、生涯学習に使っていただけるような映像教材作品を毎年作っています。昨年度の富山湾を紹介する作品は全国地域映像コンクールにおいて第 2 位、その前の年の鉄道王国である富山の歴史を紹介した「富山の鉄道物語」は全国第 3 位、更にその前年には売薬さんの話を題材にした作品で、全国第 2 位でした。そして今年度は、先ほど映像を流してご紹介しておりました富山の曳山を題材にした作品で、これが地域映像コンクールでグランプリを取りました。話が少し横にそれましたが、こんなふうに、映像による生涯学習支援ということも行っています。

最後にもう一つ、県下でいろいろ生涯学習に取り組んでおられる人たちの学習交流を進めるということも一つの役割となっております。

こうしたことを 30 年間ずっと取り組んできて、今に至っているわけではありますが、おかげさまでそれぞれの事業はうまくいっているのではないかと思います。

学習講座については、今年度は全部で 286 講座を提供し、延べ 2,551 名の方に受講していただいています。

受講はしたけれども途中でやめていく人がいるということで、一昨年から課題にしておりました修了率についても、昨年度 7 割にちょっと足りないところ、今年度は 7 割を超す状況になっており、多くの方が県民カレッジの講座を受講され、修了することができました。

学習情報提供については、ここ数年利用件数がやや少なくなりましたが、昨年度の会議でのご意見も踏まえ普及に努めたところ、今年度は 3 月末には大台の 80 万件を超えそうであり、これも一つの成果だと思っています。

学習相談についても、講座前にちょっとお聞きしたいという程度のもをはじめ、いろいろな相談がありますが、昨年度までと同様、本部と各地区センターの 5 箇所合わせて概ね月 1,000 件くらいは常に相談に来ておられるといった状況です。

学習交流の促進ですが、カレッジ本部以外の 4 地区センターのフェスティバルにおいては、来場者が非常に増えており、交流に参加された人数は大変多くなっています。

いずれにつきましても、皆さまからのいろいろなご意見を踏まえて取り組んできたからことであり、本日もさまざまな点からご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(2) 委員紹介

(3) 会長挨拶

今ほど学長さんからのお話にあったとおり、今年はちょうど 30 周年という節目の年でございます。それを記念して特別講座、記念式典等いろいろなことがありますが、本日は、平成 30 年の総括及び平成 31 年度の計画を協議してもらおうわけですが、加えて、これまでの 30 年に対してどんなふうに評価すべきか、この後 10 年 20 年の第 1 歩の年である 31 年度をどうすべきか、こんなことを少し念頭に置きながら議論していただければありがたいと思います。

■報告事項

(1) 平成 30 年度実績【議事関係資料（P1～P6）事務局説明】

①講座関係

大型講座 2 講座（夏季講座・特別講座）の開催
地域課題学び活かし講座 12 講座、ふるさと探究講座 23 講座の開催
自遊塾 113 講座の開催
映像制作講座 4 講座、教職員研修会 2 回の開催
共学講座 127 講座の開催
学習団体講座（富山県生涯学習団体協議会に委託）5 講座の開催
連携講座 24 機関 141 講座の開催

②事業関係

生涯学習情報提供（とやま学遊ネット）：アクセス件数 80 万件に達する見込み
学習相談（主に電話や窓口による相談）：1 月末実績で 9,885 件、月平均約 1,000 件
カレッジ 30 周年記念式典：記念講演の開催 参加者 404 名
学習成果発表
本部【学遊祭 10 月 7 日】：ミニ講座 6 講座、作品展示等を実施 参加者 1,333 名
地区【学遊祭等 10 月～11 月】：4 地区センターの参加者 計 3,478 名
カレッジ叢書
H29 特別講座（羽生義弘氏の「A I 時代の先を読む」）の講演記録 1 冊作成・配布
H30 特別講座（本郷和人氏の「越中の武将と天下」）の講演記録 1 冊作成・配布予定
学習活動支援サービス（カレッジカードの発行・マイページ会員へのメールサービスの実施）

③映像活用推進関係

ふるさととやまの映像の制作と配信
優秀映像鑑賞推進
本部・地区センターの上映会に加え、新たに富山駅前 C i C において上映会を開催
映像貸出等利用支援

(2) 平成 31 年度事業予定【議事関係資料（P7～P8）事務局説明】

①講座関係

ほぼ、昨年どおり
新規事業として、4 地区センターで人生 100 年時代特別講座を開催

②事業関係

ほぼ、昨年どおり
新規事業として、本部で人生 100 年時代生き方フォーラムの開催

③映像活用推進関係

ほぼ、昨年どおり

***** 質 疑 応 答 *****

【会長】 今ほど、事務局から説明のあった 30 年度実績及び 31 年度予定について、ご質問があればお伺いしたい。事務局には後ほどまとめて回答いただくこととしたい。

最初に私のほうから2点ばかりお伺いしたい。

まず、3ページ記載の特別講座について、昨年度、学長さんのご努力により「30 周年プレ特別講座」として、羽生さんの講座が実施されたが、受講者数は資料に記載の 538 人でよいか。

次に、4ページの共学講座について、富山地区センターは雄峰高校との提携と思うが、雄峰高校は随分前から共学的なことを先行していたような気がするが、その割には人数が少ないのはなぜか。

【委員】 31 年度の講座で、新規に人生 100 年時代特別講座を予定されている。これはリカレント教育を意識したものか。いままでの受講者層は、結構年齢の高い人が多かったと思っている。この人生 100 年時代特別講座では、どういう方たちをターゲットとして想定し、心身の健康等の5つのテーマを挙げているのか、少し詳しく説明していただきたい。

【委員】 同じように私も人生 100 年時代についてだが、例えば医学面や科学面などはいろいろな先進的な動き、環境面では海や大気汚染とか、100 年時代を生きている人々の生きるその環境が時代とともに新しく変化しているという側面を見ることがすごく大事だと考えている。講座にはそういったことが含まれているのかということをお聞きしたい。

【委員】 4ページが一番下のほうに連携講座がある。私も婦人会も連携講座をしているが、これについて、テーマ等、何か決まりがあるのか教えていただきたい。

【事務局】 最初の質問の「昨年度の特別講座」については、2月に特別講座と称し、羽生善治氏をお呼びして開催したが、資料に記載のとおり、29 年の 583 名というのがその数となります。

2番目の質問である富山地区センターの共学講座の 97 名については、会長さんが言われた通り、富山地区センターは現在ある4地区センターの中で最後にできたセンターですが、ずっと昔から通信制課程のほうで社会人を受け入れる「YUHO講座」というものを展開しており、その流れを受けて、地区センターが出来た何年も前から、県民カレッジの講座として実施して、現在の地区センターに受け継がれています。人数の多寡については、高校生と一緒に授業を受けるものであり、その講座を受ける高校生の人数如何により、社会人の受け入れられる範囲が制約されてしまいます。従って雄峰高校は、講座は結構多くあるのですが、たくさん生徒が在籍しており、相対的に受け入れられる人数、社会人の方に開放できる余裕が少なくなってしまう。結果として 97 名という数字になっていますが、100 名を超えてもよいのではと思っています。

3番目の質問につきまして、人生 100 年時代の特別講座がリカレント教育と関係があるのかということですが、もともと「リカレント」という言葉には学び直すという意味があり、多くの場合は、仕事をしながら一度学校に戻って勉強し直すということをリカレント教育と称しています。欧米の場合はリカレント教育が主ですが、リカレント教育も生涯学習の一つであり、その講座の対象は、50 代～60 代を念頭に置いています。

近年、人生 100 年時代ということが言われていますが、1955 年頃は平均寿命が男子で 58 歳くらいだったと思います。30 年ほどして 73～74 歳に上がり、平均寿命が延びる中、カレッジが出来た昭和63年頃は、人生 80 年時代を迎えたと言われました。そして今、30 年がたち、100 年時代といわれ、その根拠は、人口予測ですが、日本の 2007 年生まれの子ども(現在小学校5年生)たちの半数が 107 歳まで生きるそうで、人生 100 年時代というのも確からしいと実感するところです。そうした長い人生となることを念頭に置き、改めて人生設計をする必要があるのではないか、それに関わるようなテーマを掲げるということであり、ここに掲げた5つのテーマを固定的に捉えず、いろいろな切り口、いろいろなテーマを設けて、人生 100 年を生きていくうえで何が必要か、当然、新たに働かなければいけない場合が出てくるかもしれない、地域貢献活動に打ち込みたいという人もあ

るかもしれない、そういったことを含め、テーマを設定して開催する講座という風に考えています。

4番目の質問については、人生 100 年時代と言われている一方で、時代は確かに大きく変わってきています。AI時代を迎えているということもあり、科学の進展や社会の大きな変革、あるいは環境問題などといったものについても考えなければならないと思いますが、この講座では、そうしたことについて扱うことにはならないと思っています。

最後の連携講座については、これも県民カレッジの開学当初から行っているものです。生涯学習を広く、いろいろな場所で学習機会を広げてもらいたいということからやっており、一定の回数、一定の時間数以上であること、それなりに系統だった講座の組み立てになっていることなどの条件を満たせば、県民カレッジが「連携講座」と認められます。連携講座と認められた講座はカレッジと連携していると謳われており、それを踏まえて受講者も多く集まり、受講後、希望すればカレッジの単位が認定されるものです。

■協議事項【生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項の調査審議】

1 富山県民生涯学習カレッジの運営に係る現状と課題について【協議関係資料 1 事務局説明】

(1) 学習機会の提供

① 昨年度の意見

受講者が高齢化している。

若い世代も対象とする講座の検討が必要なのではないか。

定年後の仲間作りや地域の課題について学ぶ講座があればよい。

地域の発見につながる町歩き講座は必要である。

② 対応と現状

主催講座は 286 講座を開講、県民の学習ニーズに対応した多様なテーマや内容を提供

各講座の受講者数はほとんど定員を満たしており、受講者数の合計は 5,551 名

大型講座以外の 283 講座の修了者は、ほとんどの講座で増加【㊹ 72.1% ➡ ㊺ 73.4%】

昨年に比べ講座数が 10 講座増、受講者数は約 1,000 名程度増加

(2) 生涯学習情報提供ネットワークシステム「学遊ネット」の利用状況について

① 昨年度の意見

スマートフォンへの対応を行うべきでないか。

② 対応と現状

アクセス件数に関しては、決して少くない状況であると認識、スマホへの対応を含めて一層利用されるよう研究中

1 年間の活用状況はここ 5 年間ほど減少傾向で、年間 73～78 万件で推移

学遊ネットの周知を含め、県民の利用促進を図ったところ、活用件数は増加、今年度末には、80 万件を超えると予想

学習講座、イベント等の情報の年間登録件数は必ずしも多くなく、情報の入手方法や入力方法などについて工夫が必要

(3) 学習相談の対応について

① 昨年度の意見

豊かな人生を送るため、その人のための学習プログラムが提供できるような学習相談が行えるようになればよい。

② 対応と現状

情報の収集と分かりやすい情報提供ができるように努力

来所・電話・郵送・ファクシミリなどによる学習相談に対応、1 カ月当たり、1,000 件程度で昨年度並みの数字

主な相談内容は、学習講座・視聴覚教材・団体サークル・講師・指導者等であり、相談者自身の学習の計画や充実に関わる相談は全体の 75%、各種機関からの生涯学習講座の企画に関する相談は減少傾向

(4) 映像学習教材の貸出と学習機会の提供について

① 昨年度の意見

郷土学習DVDの利用促進を図るため、カレッジ本部以外の場所でも視聴できるようにすればよい。

② 対応と現状

わくわくシアターを本部のハイビジョン学習室に加え、新たに富山駅前C i Cでも実施し、月3回上映、C i Cにはこれまで来場されていなかった方も参加

映像学習教材の貸出は昨年度以上の件数になる見込み

上映会は、4 地区センターにおいて定期的に実施したこともあり、上映回数、視聴者数とも大幅に増加

(5) 交流場の設定【学遊祭・キャンパスフェスティバルの開催】について

① 現状

生涯学習に関する情報の交換や学習交流を行うことを通して、意欲や意識を高めることを目的に開催

開催時期、会場の制約がある中、特に地区センターでは、展示方法の工夫や催しの魅力アップに努め、参加者は増加しているが、今後も、更に参加者が多くなるように、開催の形態・内容・時間などについて検討が必要

2 地区センター運営会議における主な意見【協議関係資料2 地区センター会長説明】

(1) 新川地区センター

① 学習機会の提供

働き方が変わってきて、65 歳ぐらいまで勤める人が増え、団塊の世代の人たちがそのまま受講者として残ることにより、受講者が高齢化している。

学び直そう、学ぼうという方が少なくなってくる。新しい受講者を育てていく必要がある。

今、100 年時代を生きている人たち（65 歳以上の方たち）が生きがいをもって学ぶことも必要であり、カレッジとして魅力ある講座を工夫していくことが重要である。

わくわくシアターについては、新川地区は広いので通ってくるまでに時間がかかるため、1 時間弱ではもったいない。映像と解説など、その映像に関わるミニ講演を組み込み、2 時間くらいの充実した講座を組むような工夫をされたらどうか。などの意見があった。

② 学習情報の提供

ホームページについて、主催講座をクリックすると網羅的に講座の内容や過去の講座の映像等を見ることが出来、非常にいいと思っているが、全体をキャッチアップするための工夫、新川地区独特の講座や人生 100 年時代を考える講座などを打ち出すようなホームページを作れないかという意見があった。

③ 学習相談

昨年、会議の中で、事務局が殺伐として事務的な感じだという意見を受け、受講者の方々の展示物などを掲示し、サロン化した結果、寛いて新聞を読んだり、受講者同士の同士の交流の場になったりした。非常にいいことだが、もっと進めてほしい。建物の構造上、開放的なセンターと言いはないが、入口をもっと工夫してもらえたらよいという意見があった。

④ 学習交流

キャンパスフェスティバルで去年からミニ講座を実施したところ、皆さんが集まってこられる。もっともっと活発にして、参加型のフェスティバルにしたらかうかいう意見があった。

(2) 富山地区センター

① 学習機会の提供

受講の場所について、今年度は新たに富山駅前のC i Cを会場として、平日の講座が開設されたが、近くに駐車場もあり、利便性が向上してよかった。曜日については、平日又は土日のどちらが良いかは受講者によって違うのではないかと。

修了率については、主催講座は新規講座であったため、昨年度より向上し、約7割、教養講座は若干低下した。その理由として、本年度より中途の申し込みを認めたこと、受講者の年齢層が高いためか体調不良のため欠席とかということもあったが、意識がとて高い方が受講されていることには変わりはない。などという意見があった。

② 学習情報の提供

学遊ネットに関しては、シルバー世代もスマホを利用するようになったので、予算の関係もあるが、スマホ対応に行ったらいい。

センターだよりとチラシについては、昨年意見があったQRコードを入れたのはよかった。更に、高齢者向けに、「スマホをかざすと詳しい情報が見られます。」と書くなど、受講者の立場からより分かりやすくなるよう、さらに工夫をしてほしい。などという意見があった。

③ 学習相談

相談件数は、増加傾向であり、大変良いことだ。富山地区センターに学習相談窓口があるということをもっとアピールしたらいいのではないかと。などという意見があった。

④ 学習交流

雄峰高校の学園祭との同時開催で、相乗効果が出て、大変賑わいが増した。学ぶ意欲にもつながっている。

昨年度の指摘を受け展示作品の開催日を3日間延長したのは、大変意義があったのではないかと。

さらに、今後賑わいを増すため、近隣の小中学校に広報したり、ケーブルテレビで放映したりするなど、まだまだ来場者数を増やす方法があるのではないかと。などという意見があった。

(3) 高岡地区センター

① 学習機会の提供

主催講座を受講されている方がとても熱心で意欲的であり、特に共学講座では、社会人と高校生と一緒に授業を受けることで相乗効果が生まれ、活発になっている。

主催講座の終了率が80%を超え、特に60歳代が減少して70歳代が増加したことがその一因ではないかと分析している。

新規の方が優先的に受講できるような配慮をもっとすべきではないかと。

ふるさと歴史・人・文化の講座は大変人気があり、定員の50名を超える70名が受講されてお

り、よいことだ。などという意見があった。

②学習情報の提供

ネットワークシステムの利用については、フェイスブックなどのSNSをされている方は簡単に経費をかけず広報が出来るとのことで、今後新たな受講者を増やすためにも、インターネットの利用率やアクセスできる環境を整えるべきではないか。

センターだよりによる情報提供の活用については、企業や商工会議所に広報をお願いできないか。退職者の方に講座の情報が分かるようにもっとPRできないか。公共施設から民間企業などに拡大して広報を強化すべきではないか。

受講者をさらに増やすためにセンターだよりを活用したらよい。講座案内に受講者の声を載せて、より親しみやすく、興味のある内容を記載すべきではないか。などという意見があった。

③ 学習相談

利用者の7割が実際に外向いて学習相談を受けるという状況であり、受講者の年齢層を考えると、顔を見ながら安心して相談できる今の体制を大切にしてほしいという意見があった。

④ 学習交流

学習機関と連携し、さらに来場機関とも連携したため、これまでと違う交流が生まれ、昨年より盛況だった。特に、簡易的なチラシを作ったことも影響があったのではないか。

現役世代向けに土曜日に講座を実施したが、それほど受講者を増やすことが出来なかった。現役世代や若い世代が受講しやすい内容の検討が必要ではないか。講座内容の見直しにより、土曜日の受講率の増加につながるのではないか。などという意見があった。

(4) 砺波地区センター

① 学習機会の提供

より多くの方に受講していただくため、情報をどんな風に知ってもらえばよいかということで、新しい試みとして、受講生募集中のチラシを作り、町内回覧をしたところ、QRコードがあったこともあり、非常に評判が良かった。

問題点は、それを見ただけではどんな雰囲気か伝わりにくいので、1回だけでも実際に体験する機会をもてないか。

申込みの様子を見てみると、知り合いを誘うなど、口コミの効果というのが非常に大きい。一人で受講するより、友人・家族で申し込まれることが多いのではないか。

わくわくシアターについては、これまでは開催日を土曜にしたり、日曜にしたり、回数も月によって違うなどということもあったが、今年は月に1回とし、特製ポスターなどでPRしたことから、参加者は増えている。キャンパスフェスティバルに上映する機会などを設けていけば、さらにわくわくシアターのことを知ってもらえるのではないか。などという意見があった。

②学習情報の提供

この時代、多くの方々がスマホを利用しているので、メールであらかじめ講座の質問を受けたり、講座終了後に講座の資料や講師の方の書籍の情報などを載せたりすることができないか。

動画配信についても話題には出ていたが、予算のことも有るし、これにより新たに受講者が増えるということにならないのではないか。などという意見があった。

③ 学習相談

現状を知り、メールでの相談を行っていることなどをどんどんアピールをして、多くの方に知っていただく以外にない。という意見があった。

④ 学習交流

参加者が大変増えており、研究の発表、展示など、非常に賑わっているが、懸念されるのは、最近、展示に出品する団体が減ってきており、一つの方法として、ボランティアの団体の活動の紹介するようなどころもあってはいいのではないか。という意見があった。

***** 質 疑 応 答 *****

■学習機会の提供について

【会長】 今ほど、本部の状況、そして、各地区から、運営会議の様子などについてもご報告いただいた。この後、皆さんには、課題といった部分を中心に協議願いたい。

最初に学習機会の提供についてお願いしたい。

まず、私のほうから、2点ほどお願いしたい。

1つは、わくわくシアターについて、特に、今年CiCに設けたわくわくシアターの試みが好評であったとのことだったが、こういったことがほかの地区で可能なかどうか。

次に、60代が減って70代が増えたとの話で、60代が減ったのは、まだまだ働いていて忙しいという指摘があったが、私の感じでは、どうも私たちの世代と、今のひとでは若干違うような印象がある。各地区、小学校区の中にある地区という意味だが、そこにある諸団体などでいろいろな役割を分担しているが、その維持が非常に難しくなっていると言われている。例えば、長寿会への参加が少ないとか、何か役員が回って来そうな気配を察すると同時に脱会するとか、そんな動きが、最近の60代の方々に感ずるところがあり、そうしたことが学習機会への参加についても関係あるのではないかという印象を持っているが、これについて、ご意見があれば聞かせてもらいたい。

【委員】 会長さんが言われた2番目のことだが、地域のネットワーク自体が崩れてきている。実は私は自治振興会の会長をしているが、役員の成り手がなかなかいない。逆に言ったら、地域で働こうという意識のない人たちが、学ぶことを通して仲間作りをしていくという場合もあるのだろうと思う。

先ほどの人生100年時代をどう生きるかということは、50歳・55歳・60歳の人たちがどう生きていくかということももちろん大事だが、今、65～70歳を生活している人たちがどう生きていくのか、学びの機会をどう与えていくのかということが非常に大事だと思う。

思い付きのようだが、共学講座において、例えば65歳の人たちが高校生と学ぶということは、どんなことを求めて学ぶのか。「最近外国人労働者も来ているし、英語を学んでは。」という動機づけのようなものと合わせて、老化対策としての学びみたいなものもできるのではないか。「もう一度、高校時代の数学学んでみよう。」というようなやり方もできるのではないかと考えている。

次に、わくわくシアターに、新川地区センターは管内も広いので、富山市のようにちよっと集まってきて映画館のように使おうというわけにはいかない。ミニ講座などを組み合わせるなどしなければ、難しいだろうという気がする。

【委員】 2点お願いしたい。

一つは、滑川市で今年度福寿大学という高齢者の講座と公民館の研修として、2回にわたって人口減少・高齢化に関わる話をさせていただいている。人口減少・高齢化ということで予想されることは、人がたくさん亡くなっていくことで、終活の問題・社会的孤立など、それらにどう関わっていくのか、生活面での様々な課題についてどんなふうに補助していくのかなど、なかなか目をそむけてしまうようなテーマだが、改めて話を聞くと、やはりそれは地域の課題だということが分かり、こういうテーマが人生100年時代における大きなテーマではないかと思う。

次は学校教育の場ではアクティブラーニングというふうに言われているが、簡単に言えば、今、企業でもどこでも、3～4人くらいでワークショップをやって、一つのテーマについてお互いに意見や相談し合ったりして、一つのまとめをするということをしていると思う。講座ではそういったことはない

が、ワークショップでは自分を出さなければならないということが課題となるが、いったんさらけ出すと、仲間作りが出来る。仲間作りができると交流できるということである。これは自遊塾でやっている手法ではないかと思うが、こういう方式を取り入れるということによって、結果的に講座から新たな行動や活動が導かれていく。いろいろな年代の方も、やはり恥ずかしいけれども、やると力がわくのではないかと思う。

【委員】 「ふるさと」というあたりに枕詞のようにつく講座が多かったが、今年、「地域課題学び活かし」という講座名が出てきて、ちょっと新しいなあという風に思った。私は出られなかったが、友達が伝統産業のことをテーマにした講座に出て、大変良かったと言っていた。

私からのお願いだが、地域を活性化するというのもカレッジの大きな役割だと思っている。私は、高岡だが、施設の利用率が大変低い。いいところがいっぱいあるのにどうもこれではいけないと思っている。以前、県民カレッジで美術館めぐりの講座があったと思うが、それが大変良かったのは、美術作品を見るだけでなく、ポイントや見方を教えてもらい、「あーよかった。」と、同じお金を出しながらなんだか得した気持ちで帰ってこられたという講座があったので、できれば、どんどん現地に出て、施設と連携しながら、施設のいいところを知ることが出来るような講座をお願いしたい。

伊東委員が言われたとおり、一方的な講座が多く、双方向があまりないので、仲間作りにはなっていないような気がする。顔は見えてもその人のことを全く知らないということもあるので、何かの講座では、机の向きを変えるなど変化を持たせ、少し交流を図るような活動も入れてもらえたらいいと思う。

【委員】 さきほど企業の方へパンフレット等の配布があればという話があったが、パンフレット等があれば私共の経営者協会の 500 社の企業にいつでも配ることが出来る。

話は変わるが、先ほど60代という話があったが、10 年前か5年前か忘れたが、日経新聞だったと思うが、定年後の生活、ライフスタイルについて統計的に示されていたものだが、過去は 60 歳で定年後は時間的に余裕があるので、自分の学習であったり、健康作りのために一時的な仕事をするなどであったが、直近の 60 代の場合は、生涯の施設、老人ホームとかそういうマンションのためのお金を稼ぐためにまだまだ働かなければいけないという時代、要は、人生 100 年時代という 100 年を生きるために、今から貯蓄をしなければいけないという部分で非常に忙しいということであった。

話は変わるが、先ほどから地域の活性化という話があったが、やはり、中・高齢の方というのは、非常に素晴らしい知識と技術・知恵をたくさん持っておられる。確かに、今からインプットするのも悪くはないと思うが、もう一度、その知識や知恵というものを、この核家族化で問題となっている子供たちへ伝授をできるような講座があればよいのではないかと思う。そうすることによって、昨今起きているようないろいろな若者のトラブルや問題が少しは解決できる道も出てくるのではないかと思う。

私も経営者であり、60～70 代の方がたくさん来られ、冒頭から始まるのはサラリーマン時代の武勇伝から始まり、いろいろな知識や知恵をたくさん話される方がおられ、やはりそういう話を聞いているともったいないと思う。そういう話を小学生・中学生・高校生などとの共学や、団体・グループなどで共有しながら、地域を作る、人間関係を作るということを学べるような講座があったらいいのではないかと思う。

【会長】 ありがとうございます。学習機会に関していろいろ意見が出てきました。この部分について、私が言い始めた、わくわくシアターについて、新川地区からはちょっと場所が難しいとのことだったが、全体としてどんな風に考えているのか、映像センターの方のご意見を伺いたい。

【事務局】 映像センターによるわくわくシアターについて、今年度8月よりCiCで開催したところで、大変好評で、視聴者も増えており、ハイビジョン学習室と併せて月3回という形をとっています。今のところ、地区センターについては、そこまで考えてはおりません。今回、ご意見をいただきましたので、地区センターでもたくさん足が運んでいただけるような工夫をしたいと考えています。

【会長】 ありがとうございます。

そのほか、今ほどいくつかあり、人生 100 年に絡んでいろんな年代の方々の意識の問題とか、講座内容あるいはやり方の問題、それから地域の活性化など、特にさきほどの松原委員のご意見のように、今まであまり取組めなかった部分や高齢の方の経験を活用するという意見もあったが、何かこのようなことについてご意見があればお聞きしたい。

【委員】 美術館でも若い人たちの利用を増やすために、若い人たち向けの行事を企画し、メールフォームからの申し込みのような募集の仕方をして、そのあと、繰り返し新着情報を送るというようなことを行うところが増えている。カレッジにおける様々な主催講座やカレッジの行事などについて、会員の皆さんに新着情報などが行くような配信システムなどはあるのかをまず、お伺いしたい。

会長さんが言われたように、カレッジが出来たころ、30 年前に定年した方と比べると、今年定年を迎える方は、確実にみなスマホを持っていると思われ、そこにパーソナルに情報が送られてくる。カレッジでは、砺波地区の方でも新川地区の行事へ参加できるのであれば、そういった情報も絶え間なく送られてくるなど、30 年前の人より、今の人のほうが高学歴といったら失礼だが、勉強された機会や情報量も多く、個人の興味というのがすごく多様化・細分化しており、どこに興味があつて、反応されるのかわからないという思いがする。

【事務局】 さきほどのわくわくシアターについては、去年から各地区センターで始めたばかりで、模索しながら少しでも多くの方に入場し、視聴していただこうとしています。カレッジ本部では、教育文化会館5階のハイビジョン学習室だけで実施していたのですが、今年度から、CiC でやることになりましたが、本当にたくさんの方が来てくれています。富山地区センターにおいても、やり方を考えればできるのではないかと考えていますが、今後検討してもらえばいいと思います。

2番目の質問について、受講者の世代がずいぶん変わってきたのではないかとということですが、以前の60代と今の60代とは随分違っている、違って来たと思っています。以前は60代というと、パソコンを扱うこともままならず、いわゆる高齢者だと見られていたと思いますが、今の60代はスマホを使いこなしている方もたくさんおられ、そのあたりも随分変わってきています。

ただ、今の60代は忙しく、働かなければいけないので、なかなか講座を受けることができないのではないかと話もあったのですが、毎年、県政世論調査というのが行われていて、その中で、各世代に対して、「過去1年間において、生涯学習を行ったことがありますか。」というアンケート項目があります。その回答結果を世代別にみますと、一番多いのはやはり70歳以上で41%強、次に多いのが18～19歳、そしてそれに続くのが60代の33.4%となっています。3人に1人は何らかの学習をしているということで、決して生涯学習に取り組んでいない、取組めないということではないと理解しております。

3つめの質問ですが、地域のネットワーク、仲間づくりについてですが、このことは確かに今、盛んに言われていることです。地域を見ても同世代の人たちが少なくなって、その中で何か活動しようと思っても役員を敬遠する人が多いということが実際にあるようです。地域性もあると思いますが、地区センターにおいて、この仲間づくり、コミュニティづくりということが、どこまで出来るのか、ここであるところの「コミュニティ」、「地域」というのはもっと小さい単位ではないかと思っております。といいながらも、そうした活動に間接的に繋がっていくようなことはできるのではないかと思います。

それから、4つめに、伊東委員から、人口減少や高齢化が、非常に大きな議題となっているということで、今後こういった問題を取り扱うことが大事だという話でしたが、これも含めて社会全体が大きく変わっており、今後どう生きていけばいいのかということに関わって、先ほどの人生100年時代に関する講座が大事になってくると思います。

また、5つめに、アクティブラーニングを取り入れてという話がありましたが、なにぶん講義を担当するのは私たち職員ではなく、外部の様々な講師の方に頼んでやっているとあり、すべてにおいてそれが出来るということではありません。ただ、自遊塾方式と言いましょか、自遊塾で行っている講座については、お互い一緒になってというふうに交流をしながらの学習となっており、先ほど言った、アクティブラーニング的な学習形態をとっているのではないかと思いますので、今後ともそういったものは続けていけば良いと思います。

また、6つめに、ふるさと学習に関しての話がありましたが、美術館巡りは高岡地区センターで行っていて、年3回ほど実施されたものでした。確かにこれは大変いい講座だったと思います。今後各地区単位でそれぞれまた考えて魅力ある講座として企画されるのではないかと思います。

7番の、企業の経営者協会で500社に配布できるということについては、是非お願いしたいと思っています。昨年度もお話したのですが、近年、50歳代末、退職間近になった人が、なぜかカレッジに「今後何をしたらよいのか。」と相談に来られることがあります。何百人という数ではないのです

が、目立つ傾向だと思います。「何をしたらいいでしょうか。何か勉強したらいいと思うのですが、何をしたらいいでしょうか。」と、こんな質問は5・6年前までにはなかったことだと思いますし、そういった方を対象にいろいろ考えていく必要があるのではないかと考えております。

また、知識や技術を伝授するということについては、カレッジというよりも土曜学習とか放課後子ども教室とかそういうところで、社会人の方が発言して、それぞれ持っておられる知識などを伝授されるということを今、既にやられていると思います。これはこれで大事なことだと思っています。

最後に周知するシステムがあるのという話でしたが、講座の受講申込については、現在、マイページ会員になっていただければ、その中ですぐ申込むことが出来ます。ただ、それが絶対ではなく、やはりチラシを通してとか、パンフを通してという方もいらっしゃるの、いろいろ皆さんに多く知ってもらうようにしながら募集をかけていきたいと思っています。なにぶん講座の数は限られており、受け入れることのできる受講者の数も限られているので、これまでのやり方で行えばよいと考えています。

スマホの活用については、先ほど申し上げた通り、スマホも活用できるようにしたいのかなと思っていますが、今のままでは課題があるので、今後さらに研究していきたいと思っています。

■学習情報の提供について

【会長】 二つ目は学習情報の提供について、ご意見願いたい。

【委員】 私は、地域の自治会の役員をしております、男性の60台前後の人と良くお酒を飲んで話をする機会が多いが、私が公民館連合会に勤めていることを知っておられるので、生涯学習の話があったときに、生涯学習のことをいろいろ勉強したり体験したりしたいけれど、どうしたらいいのかと尋ねられた。インターネットで学遊ネットを見たらよいというと、ほとんどの人が学遊ネットを知らないという反応だった。女性の方なら、生涯学習に対して、男性よりもはるかに前向きだと思うが、男性の場合は仕事に追われていて、65歳過ぎてから考えるということもあるのか、学遊ネットを知らない、つまり情報の入手方法さえ知らないという幼いところがある。そう考えると、こういう素晴らしい冊子などや、先ほど砺波のほうで、各種講座を町内回覧されたという話も出ていたが、生涯学習に関する情報を一番よくみることが出来るものとしたら、私の場合は富山市なので、富山市の広報ではないか。広報にほんのちよつとの部分でもいいから、例えば、春先の4月号、年度末の3月号あたりに、生涯学習という見出しをつけて、「学遊ネットに出ています。」とか、そういうものを掲載していただだけでも、はっと気が付く方は多いのではないかという気がしている。要望でもあるが、そういうものを載せていただくと、意識が変わる人も多いかと思う。

【委員】 現地とかに行った時の講座が写真付きで新聞に載った時に、わりと電話がかかってくることもあったので、やはり、新聞が一番効果的だったように思う。

今はネットとかいろいろあるが、募集人数は決まっているので、申込んでもどうせ落ちるっていう人もたくさんおられ、それが不満になっていることもあるので、募集もさることながら、よい内容を広めたほうがいいのではと思う。

【委員】 市の方では、子育てアプリというものを昨年作り、運用している。全国的にやっている。要するに子育てに関する履歴を入れていきながら、いろいろな相談の場所へ繋いでいくというものである。既に生涯学習カレッジの方でもやっているが、一部の講座はそこで視聴でき、私はもう10年以上前から、少し時間があれば、どんどんいろんな大学の講座とか見ており、そういうことでかなり勉強できる環境であるので、履修歴とか、履修歴を積み上げていくと単位までは行かないが、これだけの講座を見たということを確認できる。予算の問題もあるが、そういうふうに生涯学習履歴のアプリ化、スマホのアプリ化が出来ればよい。

【会長】 一つ質問的なことがあったが、市の広報に掲載できるかどうかということ、この辺はどうか。

市町村の事情にもよると思うが、私の印象では、市の広報誌は満杯のような気がする。また、市の事業と県やそれ以外の事業の棲み分け等どうするのかなどがある。

【事務局】 全ての地区、全ての市町村ということではありませんが、一部、市の広報に載せてもらうなどのことは今もやっていますが、全てではなく、ケースバイケースと思います。

また、県民カレッジの講座だけが生涯学習講座ではなく、市でも講座を実施しているという話が先ほど出ました。確かに市町村の方でも結構やっておられ、今ほど、砺波地区の話が出ましたが、南砺市あたりは、かなり体系的で、立派な講座を組んでおられます。そういう意味で、カレッジが全てを網羅してしなければならないということでもないような気がします。

学遊ネット自体を知らない人がいるということですが、これはあるかもしれません。

本日初めて現状と課題のところに書いたのですが、学遊ネット自体、よくわからないと思われる点があります。一つは、このシステムが立ち上がった当初は、県民カレッジだけではなく、県下全ての生涯学習講座を載せようとしていました。また、生涯学習に関わる全ての施設を載せようとしています。同様に、全ての生涯学習事業に係る講師情報を載せています。文化財も載せています。ということで、県民カレッジに特定しない形の情報を提供するのが、いわゆる学遊ネットです。次は、カレッジ本部のホームページと4地区センターそれぞれのホームページ、それらが全て一つの画面の中にあって、独立している。そして映像センターもホームページを持っています。そして視聴覚ライブラリーも独立したページを持っている。もう一つ、県内の公民館の学習情報等を紹介している公民館ネットがあります。これをどのように紹介するのはまた難しいことで、このように作りこんできたことに責任があるのかもしれませんが、ただ、いずれにしても、使っている人はたくさんおられる一方で知らない人もいますから、使ってもらうようにするに越したことはないと思っています。

それから子育てアプリを例として履歴の話が出ました。今、カレッジカードを持てば、全員履歴が記録されています。問合せされればすべてわかります。カレッジカードを持ってカレッジの会員になっておられるのは、累計で5万5～6千人になっており、ご自身で取得された単位についてはいつでも確認することができますし、またマイページ会員になられたら、ご自身の学習歴をいつでもネット上で確認することができます。こうしたことは、その人の学習意欲にもつながっていくものと思っています。

【委員】 一つ質問してよいか。ホームページが、すべてのアプリに対してプラットフォームになっているということですか、それとも1個1個独立しているわけですか。

【事務局】 難しいです。

【委員】 たとえば、学遊ネットというところをクリックすれば、そこに先ほどおっしゃったようないろいろなアプリがのっている。そこに順番にいくことができるのか、それともアプリが1個1個独立していて、それぞれ探さなければいけないのか。

【事務局】 バナーはあります。一番大本は学遊ネット、それがプラットフォーム、そこに本部・地区センターがついています。

【委員】 学遊ネットをPRすればあとはすべてつながってくる。

【事務局】 そうですね。しかし、地区センターのホームページから入ってこられる人もおり、地区センターからは入ってきても本部に戻る。あるいは全体に戻ることもできる状態です。

【委員】 学習者が求めるものによって違っていることが多々あるので、入りやすいけど入りにくい。

【委員】 だから、窓口を一つにして、枝分かれしていく方が楽だと思う。

【委員】 学遊ネットって何っていうことを先ほど清水委員がおっしゃっていたが、元日の新聞の一面に、「学遊ネットってなに？」っていう記事を載せて、家にいる人みんながそれを見て、生涯学習元年みたいな気持ちになって、アクセスして、ちょっとやってみるという機会があれば違う。

【委員】 何か一つキャッチコピーとして打ち出せば違う。

【委員】 富山大学でも同じように、生涯学習を提供しているセクションにいて、私が感じていることだが、やはりアプリも学遊ネットも大切だが、ペーパー媒体もすごく大切だ。これは両輪で行かなければ情報は伝わっていかないということがある。ただ、本当に大切なのは口コミ情報で、やはり学習した方たちによる、「楽しかった。ためになった。こういうことを学べた。」という口コミが口コミでまた人を繋いでいく。両輪というより、この三つが調子よく動いていくことが大切で、これが上手く動いていると思うのが、先ほどご紹介のあった滑川市の福寿大学だ。世代層に合わせてニーズに合った講座を開いていて、すごくニーズが膨らんでおり、そういうことも大切なことだと思う。

今後については、やはりニーズを把握しつつ、受け手だけではなく攻めもあり、提案もあり、そして、情報もやはり便利なものとして使っていくことも大切ではあるが、それだけではなく、やはり丁寧に

県内隅々に分かりやすく伝えていくということがとても大切だと思う。

学遊ネットが何か分からない方たちがうちの相談窓口に来られることもある。学遊ネットで何が分かるのか、どういう風に便利に使えるのかということを記した小さな冊子やペーパーなどがあれば、またそこにもう少し分かりやすく記載していただければ、とても使い勝手がいいのではないだろうか。

今の学遊ネットは、扱いなれていない方たちには迷いが生じるようなところがあり、初めてアクセスするとどうしたらいいのかわからないというクエスチョンマークがでてしまうということが、うちの方の学習者からよく出ている話であり、それだけはお伝えしておきたい。

■情報提供・学習相談・映像学習教材等・学習交流等について

【会長】 ありがとうございました。県民カレッジの五本の柱の中のはじめの二つである、「学習機会の提供」と「学習情報の提供」は大きなところであり、時間がかかったのはやむを得ないと思う。大変恐縮だが、残りの時間を考え、「学習相談」、「映像学習教材の貸し出しと学習機会の提供」、「学習交流」、これらを一括して皆さんから課題とかご意見とお伺いしたい。

【委員】 学習相談については、今、本学の方でも学習相談件数がとても増えてきている。それもやはり50代で、会社員や学校の先生方だが、今後どう学んで行ったらいいのか、定年をどう向えたらいいのかといった内容で、そういうことに気づくのがどうもその年代らしく、50代の方の学習相談が増えてきている。

これからについては、その相談にどう対応していくかということもあるが、まずは、今、提供している学習機会について、これを学んだらこういうことが出来るようになるという、学びの一步先を提案・提示できれば、より学びやすい環境になっていくと思う。

それとも一つ、今の50代の方たちは、どの講座を受けたら自分たちの人生が楽しくなるか、明るくなるか、またはどんな資格が取れるのかとか、一步先を見据えていることがとても多く、それに対する相談が今後増えてくると予想される。そのため、相談窓口についても丁寧に対応する体制を整える必要があると考えている。

【委員】 これは全体のことになるかもしれないが、若い世代をいかに増やすかということが出ていなかったと思う。今年度の総受講者数5,551名の中で、全体の大体3割が自遊塾に関する受講者数、2割くらいが夏季講座と特別講座になっている。高岡地区センターでもそうだが、土日といえども、若い人たちがなかなか受講しにくいということもある。やはりこの大型講座2講座が大きな人数のウエイトを占めているので、多分講師の人選などはこれからされるのだと思うが、私は夏季講座とか特別講座については、若い人たちが是非受講したくなるような講座、そして人生100時代の講座につながりが持てるような講座内容となるようお願いしたい。

若い人たちには県民カレッジ自体そのものがあまり浸透していないような気がするので、今、学遊ネットの話も出たが、もともと県民カレッジが何をやっているのかということを含めて、大きな講座のところで、今後の取り組みなどを示し、若い人を取込んでいきたいということを打ち出して、次年度の方針にしていきたいと思いますと思っている。

【委員】 私はPTA連合会からここに来ているが、仕事が地域包括支援センターで65歳以上の方々の相談窓口ということで働いており、まず、そちらの話をしたい。地域離れということで、60代の方は長寿会にあまり入られない。長寿会の方々は、新しい方が入ってこられないと言って悩んでおられる。また、地域の公民館ではサークル活動が活発に行われているが、皆さん年々歳が上になってきて、大体80歳前後の方々が多く、60～70代の方々は、地域ではない友人が多く、会社時代の友人とか文化講座に出て友達になったとかいうことが多く、地域をつなぐ役割になっていただきたい60代70代の方がなかなかその地域に根付いていないというのが、私仕事をしているうえでの悩みとなっている。とはいっても、女性は比較的近所づきあいがあり、子育てを通じてだと思いが、小学校・中学校など、子供が同級生だったということで、PTA活動を始め、母親クラブ・児童会とかでつながっていて、サークル活動とか公民館活動とかに参加しておられる方が多い。男性は公民館には来ないというか、サークルや出前講座などは女性参加者のほうが多いという印象を受ける。

男性は2極化しているような印象をもっており、意識の高い方は二つも三つも講座を受講し、県民カレッジや市民大学に出かけているけれども、まったく興味がない人は、学習という言葉がついただけで毛嫌いして、もう、この年になって勉強しなくてもいいみたいな感じの方が多い。地域の公民館で出前講座では、そんな方も参加しやすいような、なじみがあるような講座をしていただけると、家に閉じこもりがちであまり友達もいないという男性も参加しやすいのではと思って聞いていた。

また、私たちは子育て世代であり、先ほど、学長さんの話にもあったが、私の息子がちょうど5年生なので、107歳まで生きるのかいうことでびっくりして聞いていた。子どもどもたちからみても、生き生きシニアの方々はすごく輝いて見えている。おじいちゃんやおばあちゃんがすごく素敵に見えるので、ますます生涯学習に参加される方が多くなればという風に考える。

【会長】 ありがとうございます。ほかにございませんか。よろしいでしょうか。

発言のなかに、いくつかカレッジのほうへ問合せや期待のようなことがあったので、そちらについてまず回答願いたい。

【事務局】 学習相談という機能は非常に大事なものと思います。今後ともさらに充実していくことが必要と思います。その中で情報提供の話も出ました。ネットというのは大事であり、それによってスマホも含めて多くの人が簡単に情報を収集できるようになればいいということだと思いますが、それだけではだめであり、やはりペーパー媒体も実際大事であり、更に言うと、さきほど藤田委員も言っておられましたが、フェイスツーフェイスの人間との関係が大事とそんなふうに思っています。

高岡地区センターの運営委員会が出た話ですが、結局、知ることと、行動することとは別のものであり、知ってはいても、実際行動するかどうかは分からない面があります。具体的には、講座があるのはわかっているが、講座へ行こうかとなるにはやはり人対人の関係の中で、誘いがあるなどにより実際の行動につながるという話も出ており、その通りと思って聞いていました。

あと特別講座について、若い人も対象になるようにという話がありました。ここ4年はかなりそのあたりを意識して講師を選んでおり、3年前はエジプトの発掘で有名な吉村作治氏、2年前は人の生き方について考えるということで、「嫌われる勇気」を書いたベストセラー作家で哲学者の岸見一郎氏が講師でした。また、去年はモーリー・ロバートソン氏と本郷和人氏で、いずれの講演についても、受講者は50代が結構多かったと思います。講師になる人を選ぶ、話の内容を選ぶことによって、受講する人も変わってくると実感したところです。先ほど言われたことについては、今後ともまた考えていきたいと思っております。

それから、カレッジは何をしているのか、それすらなかなか分かっていない状況なんじゃないかということですが、そうじゃないようにしなければならないと思います。

【委員】 いろいろと皆様方のお話を聞きながら、生涯学習社会の実現ということは非常に高邁なことで、すごく大事なことだと考えている。私は大学で、1年生に生涯学習概論という講座を全員に受けてもらっているが、その時に初めて生涯学習という言葉を知ったという学生がいる。本当は知っていなければならないことだが、知らないという、情けないというか、さきほど清水委員のお話もあったが、必ずしも全ての人に伝わっていないという現実があると思っている。

私はこの県民カレッジで特に注目を浴びているのは、夏季講座であるという認識である。かつての夏季講座は、例えば富山で何人高岡で何人といったように、たくさんの講師をお呼びし、それを皆さんが熱気であふれる感じで聞いていた。あの時代を懐かしく思っている。時代は変わり、今、学長さんがおっしゃった、岸見先生の講座について、学生にその話をしたところ、一緒に連れて行ってほしいと言ったので、私も一緒に行き、学生はそれを聞いて、自分の生涯学習についてそれを卒論に広げていった。そんなふうに、こういうことをさらに広く知ってもらうことがすごく大事なことだと思っている。そのためにも、これは希望であるが、是非、予算を取っていただき、夏季講座を一つでも二つでも増やしていただければ、それが若者やいろいろな年代の方に広める契機になると考えている。

■その他【新規事業：人生 100 年時代に関して】

【会長】 最後に私からのお願いとなるが、人生 100 年時代に関する予算が2カ所ついている。特にフォーラムについて、現段階での取組む思いのようなものを話せる範囲でお願いしたい。

【事務局】 趣旨等については資料に書かれておりです。人生 100 年時代を迎えて、生涯学習というものを非常に幅広くとらえ、子供たちのキャリア教育も重要な生涯学習の一環であるというふうに位置づけ、リカレント教育については、働いている人についても、新しい技術に対応するため勉強しなければいけないとか、そんなこともたくさん出てきます。そういった部分での学習、これをリカレント教育と称します。更には、その後の高齢者の方にとっても、人生は長くなっていくわけですから、生涯学習をすることがより大事になってくるということを話すというフォーラムとなってくると思っています。

具体的な形としては、誰か基調講演していただいて、パネルディスカッションなるものを行ったうえで、何らかの提言をするという形になるのではないかと思います。具体的なことは、まだ決まっていますが、年度内、あまり遅くない時期にやることになると思っています。

【会長】 さきほどから期待もあったので、県民の方がぜひ聞きたいと思うような方を講師やパネリストにお呼びいただければ、かつてのような夏季講座を補うようなものになるのではないかと思います。

【会長】 予定の時間がきたので、協議は、ここまでとします。

県民カレッジにおかれては、本日委員からのいろいろなご意見などを十分にご検討され、運営の中でできるだけ取り上げていただければ思っている。

各委員の皆様にはご協力ありがとうございました。

■閉 会【学長】

昨年にも増して本当にいろいろな視点から、いろいろな貴重なご意見をいただけたと考えております。中には厳しい、カレッジが知られていないという話もございましたし、学遊ネットについても、まさにその通りだと思います。ネットについては先ほど松原委員のほうからご意見もありました。分かりにくい作りになっているとかこうしたらいいのではないかとすることは重々わかっているつもりなのですが、なかなかどうしたらいいのか、もちろんお金もかかる部分もありまして、今まさに研究しているところです。その他それぞれにいろいろありがとうございました。

本日は大変遅くまで協議いただきましたが、今後とも充実した運営を行っていけるよう、努めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。